

平成22年度 特別会計の決算状況

●老人保健特別会計

歳入	46万円	繰越金でまかなわれています。
歳出	46万円	医療給付費などの月遅れ請求分や前年度の清算金として支出されます。

●国民健康保険特別会計

歳入	23億5,749万円	国民健康保険税 6億2,244万円 医療給付費分1人あたり約7万円 他に、国・県からの交付金や一般会計からの繰入金でまかなわれています。
歳出	22億5,589万円	療養給付費・療養費 14億1,848万円 医療費(保険負担分)1人あたり約21万円 他に、保健事業などに使うお金として支出されます。

●後期高齢者医療特別会計

歳入	1億8,563万円	後期高齢者医療保険料 1億3,305万円 被保険者1人あたり約6万円 他に、一般会計からの繰入金でまかなわれています。
歳出	1億8,205万円	後期高齢者医療広域連合納付金 1億7,269万円 (岐阜県後期高齢者医療広域連合が保険料の決定や医療の給付などの事務処理を行っています。)

●介護保険特別会計

歳入	13億8,677万円	介護保険料 2億6,073万円 被保険者1人あたり約5万円 他に、国・県からの交付金や一般会計からの繰入金でまかなわれています。
歳出	13億5,018万円	介護給付費 11億1,133万円 介護サービス利用(保険負担分) 被保険者1人あたり1月で約17万円 他に、介護予防事業などに使うお金として支出されます。

●下水道事業特別会計

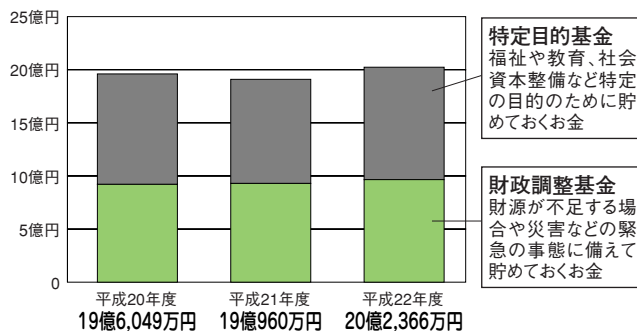
歳入	9億2,034万円	下水道使用料 1億8,777万円 他に、一般会計からの繰入金や国・県からの交付金、町債(町の借金)でまかなわれています。
歳出	8億8,996万円	公債費 4億9,276万円 (下水道工事などのために国や金融機構などから借りたお金の返済などに使われるお金) 下水道事業費 1億9,437万円 (下水道工事などに使われるお金)

基金と町債の状況

◇町の貯蓄は、どれくらいあるの？

基金(町の貯蓄) 現在高状況

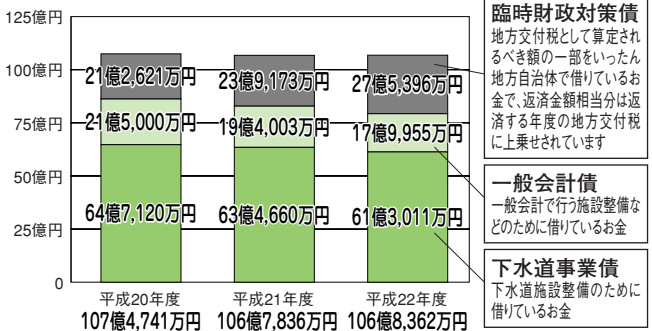
平成22年度の基金現在高は、前年度に比べて約1億円増加しました。



◇町の借金は、どれくらいあるの？

町債(町の借金) 現在高状況

平成22年度の町債現在高は前年度に比べて約500万円増加しました。



財政健全化比率の公表

地方公共団体の財政健全化に関する法律により、笠松町の平成22年度健全化判断比率の4指標と公営企業における資金不足比率を公表します。

この指標が基準値(早期健全化基準)を超えると財政再建団体の予備軍として、財政健全化計画の策定の義務付など、自主的な改善努力による財政健全化を図ることになります。

笠松町の平成22年度の健全化判断比率・資金不足比率は次のとおりです。

平成22年度健全化判断比率の4指標

1. 実質赤字比率 該当なし 【早期健全化基準:15%】

一般会計などの赤字の程度を示します。数値が大きいほど財政運営が深刻化していることを表します。
平成22年度の笠松町は黒字のため、実質赤字比率は該当ありませんでした。

2. 連結実質赤字比率 該当なし 【早期健全化基準:20%】

特別会計や企業会計などすべての会計を合算して、町全体としての赤字の程度を示します。数値が大きいほど財政運営が深刻化していることを表します。
平成22年度の笠松町は黒字のため、連結実質赤字比率は該当ありませんでした。

3. 実質公債費比率 7.7% 【早期健全化基準:25%】

借入金の返済額やこれに準じる額の大きさを示しています。数値が大きいほど資金繰りが悪化していることを表します。
笠松町は早期健全化基準を下回っており、平成21年度の比率は8.0%で、前年度と比較して0.3%減少しています。

4. 将来負担比率 75.6% 【早期健全化基準:350%】

借入金や将来的に支出することが見込まれる現時点での残高を示しています。数値が大きいほど将来、財政を圧迫する可能性が高いことを表します。
笠松町は早期健全化基準を大きく下回っており、平成21年度の比率は77.8%で、前年度と比較して2.2%減少しています。

平成22年度公営企業における資金不足比率

公営企業の料金収入の規模に対する資金不足額の程度を示します。数値が大きいほど経営状況が悪化していることを表します。
水道事業、下水道事業とも資金不足額が発生していないため、資金不足比率は該当ありませんでした。

資金不足額なし 【経営健全化基準:20%】